

南丹市子どもの未来応援プラン ～子どもの貧困対策推進計画～ の進捗状況について

基本理念

すべての子ども達が、その生まれ育った環境に左右されず、自分自身の生きる力を高め、未来を切り拓き夢をもって成長していける社会の実現を目指します。

■基本目標 1

子どもの健やかな育ちと安心して過ごせる環境の支援

【新規事業】

事業・取組	令和3年度のごき	今後の予定 次年度以降のごき
第三の居場所 開設	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年10月に南丹市子ども家庭サポートセンター「Ruri」を開設。 ・「Ruri」では、子ども達が居心地よく感じ、安心して過ごせる場づくりを大切に、次の活動へのやる気に繋がる土台の部分を担うことを役割として運営している。 ・今年度「サポート教室」の利用児童検討会議は、4回開催し、現在、利用決定しているのは9人、うち6人の児童が利用している。 ・日常的な体験（身の回りの片付けや、調理、菜園活動など）に加え、豊かな経験と楽しい気づきが得られるよう野外体験活動を実施した。 ・「Ruri」の周知や利用に繋げるための催しとして、NPO法人や団体と共催し、「こども食堂」や「子育てつどいのひろば」を「Ruri」にて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係機関と連携し、「Ruri」の利用を必要とする子ども達が繋がり、安心して過ごせる居場所の提供に努めていく。 ・また、「Ruri」の利用目的について、正しい理解を深め、利用につなげていけるよう、今後もNPO法人等とも共催し、「こども食堂」等定期的の実施していきたい。
食事の提供支援 についての研究	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会では、フードドライブ事業を実施される中で、今年度新たに生活が厳しくなった方への食糧支援として「食からつながるプロジェクト@なんたん」を実施された。ひとり親世帯へも支援が行き渡るよう、市としても広報等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で支え合える仕組みづくりとして、食事の提供支援ができるよう、今年度の社会福祉協議会での取組みをきっかけとして、今後も社会福祉協議会との協力を検討していく。

	に協力をした。	
学習サポーターの登録・派遣	・具体的な検討に至らなかった。	・学生サポーターの利用について、関係団体等と連携し、まずは「Ruri」で活動ができないか検討していく。
進学に向けた支援情報の周知の強化	・具体的な検討に至らなかった。 ・学校への聴取の中で、支援制度が必要と思われる家庭には、進路相談時に、京都府の支援制度一覧やパンフレットで説明されているとのこと。	・子ども達にもわかりやすい「支援制度のてびき」の作成について、学校や関係機関と検討を行う。
子ども達への情報発信の強化	・具体的な検討に至らなかった。	・SNSの活用の有効性など発信の方法について、学校や関係機関と検討を行う。

■基本目標2

生活基盤の安定と経済的支援

事業・取組	令和3年度のうごき	今後の予定 次年度以降のうごき
モノ支援	・具体的な検討に至らなかった。 ◇市内小中学校の「制服等リユース事業促進事例」 市内実施校 小学校1校 中学校2校	・引き続き「制服等リユース事業促進事例」の活用を検討する。

■基本目標3

社会全体での気づきの醸成と支援への仕組みづくり

事業・取組	令和3年度のうごき	今後の予定 次年度以降のうごき
庁内連携組織の設置	・個々のケース支援の中で共通する地域の課題を協議をする場として、「子どもの貧困対策庁内推進委員会」を設置し、令和4年2月28日に第1回の委員会を実施した。	・今後も定期的開催し、子どもの貧困に関する地域の課題や施策等について協議していく。
子どもの貧困への理解の推進	・地域で子ども達を見守っていく土壌づくりとして、コミュニティの重要性と日常の	・今後も地域の支援者や広く市民に対し、子どもの貧困への理解を深めるた

	<p>大切さを描いた映画「さとにきたらええやん」の上映会を令和4年3月16日に実施する予定。地域で家庭への支援に携わっていただいている、主任児童委員、NPO法人等団体、母子寡婦福祉会、社会福祉協議会等多くの関係者に呼びかけている。</p>	<p>め研修等を企画し、実施していく。</p>
<p>気づきマニュアルの作成</p>	<p>・具体的検討には至らなかった。</p>	<p>・「子どもの貧困対策庁内推進委員会」や支援団体で、困難を抱えている子ども達の様子に気づきポイントを共有していく。</p>
<p>地域応援ネットワーク会議 (仮称)の開催</p>	<p>・支援が必要なケースについて個別の連携を行った。 ・令和3年7月16日、NPO法人や団体等と「意見交換会」を実施し、ネットワークのあり方について協議をした。</p>	<p>・引き続き、それぞれ団体等の特徴や活動を活かしつつ、市全体の気運の醸成が図れるネットワークづくりに取り組んでいく。</p>
<p>持続可能な支援活動の研究</p>	<p>・具体的検討には至らなかった。</p>	<p>・引き続き検討、協議を行う。</p>
<p>情報発信についての研究</p>	<p>・コロナ禍におけるオンラインの活用が、外出が困難な産後の女性の孤立や不安解消にも有効だと考えられる。</p>	<p>・「子どもの貧困対策庁内推進委員会」や「意見交換会」で、意見交換を行う。</p>